

○議長（高橋正博君）

7番 濱野良一君。

○7番（濱野良一君）

7番、濱野です。

本日、一般質問の機会を得られましたので、通告書のとおり、2点質問をさせていただきます。

まず最初に、障害者福祉施設整備の考え方についてお尋ねいたします。岡野町長は議員時代に、グループホーム設置に向けた施策の提案、提言を何度も一般質問で行ってまいりました。私も非常に、重要な問題であると感じ、その施策の実現に寄与したいと考えております。

当時から、町長が提言していたとおり、今も、障害のある子の将来を心配する保護者や関係者の声は非常に多く、切実な問題であります。障害者の実情は、町長もおっしゃられたとおり、1人では生きていくことは困難で、周りの支援が必要であります。

現在、障害者支援学校が整備されており、令和5年4月に香川県立小豆島みんなの支援学校が開校予定であります。

障がい者学習の基盤は改善されようとしておりますけれども、卒業後の心配は、先に述べたとおりであります。支援学校を開校するために、障害者の保護者有志が団結し、誘致運動を展開しました。また、福祉課を含めた関係各所、小豆全域の方が協力して開校を推進されました。

私も少しその中で活動しており、その過程では、すべての人の意見が一致しておらず、どんな学校形式がベターなのか、真剣に議論をしておりました。また、開校までのスケジュールを考えますと、自分の子どもは間に合わないという保護者もおりました。

しかし、将来のためには必要だと、一緒になって、この事業を行ってまいりました。考え方や、必要なことが違う人たちが、少しでも多くの人々の障害者教育の充実になることを考え、多くの関係する団体、組織や個人が一体となって活動した結果が、県教委を動かしたなと思います。

支援学校開校が目の前に迫り、町長という立場になった今、改めて議員時代からのグループホーム設置の意思を確認するとともに、土庄町としてのグループホーム設置の考え方をお伺いいたします。

○議長（高橋正博君）

健康福祉課長 石床勝則君。

○健康福祉課長（石床勝則君）

濱野議員のご質問にお答えいたします。

グループホームの設立につきましては、現在、小豆圏域において、障害者福祉

事業の中核的役割を担っている社会福祉法人、ひまわり福祉会と精力的に協議を行っているところでございます。

高齢化および重度化が進む障害者の親亡き後の生活基盤としてのグループホームの不足は、小豆圏域における重要課題の一つであると認識しております。

小豆島町ともすり合わせをしながら、新たなグループホームの設立に向け、本年5月から、3者で具体的な協議を開始いたしました。

ひまわり福祉会からは、施設運営の状況や課題のほか、今後必要になると見込まれるサービスや機能についての考え方などをお聞きするなどした上で、現在は、両町が提示したグループホームの候補地の中から、ひまわり福祉会に適地を検討してもらい、具体的な条件や施設概要面についての協議をしている段階となっております。

今後のスケジュールといたしましては、今年度中に、施設の設置場所、施設規模等を取りまとめ、令和5年度には、補助金の交付申請を行い、首尾よく採択されれば、6年度の施設建設、7年度中の開設を目標に事務を進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

7番 濱野良一君。

○7番（濱野良一君）

担当課長からは、実質協議中であると、また、7年度開設を考えているというふうなことでございました。

町長も、過去、たぶん議員になられてから、ずっとこのことに取り組んでこられてきたのかなというふうに思っております。町長のご意見も、ぜひ伺いたいというふうに思います。

○議長（高橋正博君）

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

濱野議員のご質問にお答えいたします。

グループホームの設置については濱野議員が今おっしゃったとおり、私、議員時代から何度も質問させていただきました。そのところで、実際、町長として動き出したところ、土庄町だけではグループホームの設置に対してのスピード感が持てないというところで小豆島町のほうに投げかけたところ、同じ思いで、小豆島の島内でグループホームの設置に向けて進めていきたいということでありますので、今担当課長が申しましたとおり、第三者での検討を進めておる状況であります。

私といたしましては、早急にグループホームを設置したいと思っておりますので、何とぞご理解の上、よろしく願いいたします。

○議長（高橋正博君）

7番 濱野良一君。

○7番（濱野良一君）

非常に具体的な方向で進んでいるというふうには考えておりますが、ただ支援学校のお話ししましたとおり、すべての人を救うということは非常に難しいというふうに考えております。

しかしながら、一步でも進まない、その他の人も救えなくなってしまうというふうに思っております。

どのような規模になるのかは、今、たぶん協議中であろうかと思っておりますので差し控えさせていただきますけれども、先の支援学校の連携もありますが、そこでの連携も必要になるのではないかなというふうに思います。実質、どのような程度の障害者の方が、子どもたちがいるのか。たぶん、グループホームになりますと、どの程度のことができるか等々も、知っておく必要があるというふうに思っております。

そういうふうなことも考えますと、これから支援学校との連携、情報共有は必要であるというふうに思いますが、現在、支援学校との情報共有等々の状況につきましては、どのようになっているのでしょうか。

○議長（高橋正博君）

健康福祉課長 石床勝則君。

○健康福祉課長（石床勝則君）

支援学校との連携につきましては、こちらのほうも、社会福祉法人ひまわり福祉会が、現在、放課後等デイサービス事業を行っております。こちらのほうで支援学校の開校によりまして、利用者の状況やニーズが変わってくる可能性があることから、ひまわり福祉会にて、開校後の対応や体制についての検討をしているところでございます。

社会福祉事務所（障害福祉事務所と後で訂正あり）と支援学校との連携によりまして、特別支援教育の充実が効果的に図られますよう、町といたしましても、必要な支援を検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

健康福祉課長 石床勝則君。

○健康福祉課長（石床勝則君）

支援学校との人数の関係につきましては、今現在、私どもではまだ把握はしておりません。

○議長（高橋正博君）

7番 濱野良一君。

○7番（濱野良一君）

はい、これからやっていくことは、種々あろうかと思えます。また、これは後の質問にありますけども、教育委員会等々の連携も当然必要になってくるというふうに考えております。

町長もおっしゃられたとおり、ぜひ実現に向けて、できるだけ早く開設していただけることが、その次につながるというふうに思えます。

開設することが終わりではありませんで、そこからが始まりでもあるのかなど、たぶんソレイユができたときに、非常に素晴らしいことができたなというふうに思っておりますけれども、その次に続くことであると思えますし、それをどんどん継続していくことが必要であるというふうに考えますので、ぜひよろしくお願いをいたします。

続きまして、2点目の質問をさせていただきたいと思えます。

土庄町の今後の教育への考え方と、学校運営の考え方はということで、以前、下地教育長になられたときも、同じような質問をさせていただきました。

地方教育行政の組織および運営に関する法律の改正により、地方行政における教育委員会制度が大きく変わりました。それまでは、教育委員会の中で、教育委員長は互選で選ばれており、教育長は、実質事務的な立場でありました。それが、教育長は教育委員長職となることを、改正により法律に盛り込みました。教育委員長職となる教育長の任命者は町長であります。これまで曖昧であった教育行政における責任の所在が明らかになるとともに、教育委員会の地方での権限が大きくなり、教育委員会の重要性と責任が増したと考えます。

しかし、このことは、町独自の教育施策を行いやすくなったとも考えられると思えます。例えば、教科書の選定は、町独自で判断できるようになったと聞いております。教育委員会で、定めた教育方針に沿って、独自の教育ができるのではないのでしょうか。具体的に可能かどうかは、その政策によって違ってくると思えますし、まだ私も勉強不足で、どの程度のことができるかとまでは把握をしておりません。

そのような中、わが町では、教育基本法のもとに、土庄町教育基本大綱があり、土庄町教育憲章もあります。これらを踏まえた上で、これまで土庄町の教育を考えて、さまざまな教育行政を行ってきたと思えます。

町長が新しくなり、教育長も新たに任命された現在、今後の土庄町の教育への考え方と取り組みをお聞きいたします。

○議長（高橋正博君）

教育総務課長 佐伯浩二君。

○教育総務課長（佐伯浩二君）

それでは、濱野議員のご質問にお答えいたします。

土庄町の教育への考え方につきましては、教育基本大綱の中で、教育のすべて

は子どもたちの未来のためにあると認識して、子どもたちが健やかに成長し、地域や社会を担う資質を身につけることを目的に、視野が広くスケールの大きい人間の形成を図っていることとしています。

今後この考え方にに基づき、さまざまな教育施策および学校運営を行ってまいります。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

7番 濱野良一君。

○7番（濱野良一君）

新しくなられました港教育長にもお考えをお伺いしたいというふうに思います。

○議長（高橋正博君）

港教育長。

○教育長（港育広君）

失礼します。今後の土庄町の教育ですが、知・徳・体の調和のとれた子どもを育てることは無論ですが、ICT教育の推進および次世代に小豆島土庄町の良さを伝えられるとともに、ふるさとへの愛着と誇りを持てる子どもの育成に努めたいです。

そして、多くの子どもたちが、一度は島を離れるでしょうが、この小豆島土庄町に帰ってきたいと思える子どもを1人でも多く育てていきたいです。そのために、島に帰ってきたいと思える人づくりと環境づくりが重要だと考えます。

土庄町に残る素晴らしい伝統文化を知る学習、自然体験学習等に努めるとともに、生涯にわたって学べる場、体験できる場、運動できる場を大切にしていきたいと思います。島だからできないでなく、島でもできる、いや、島だからこそできる教育に取り組んでいきたいと考えております。以上です。

○議長（高橋正博君）

7番 濱野良一君。

○7番（濱野良一君）

たいへん素晴らしい考え方だというふうに思います。

私も先に述べたとおり、教育委員会として、土庄町らしい独自の教育施策をしっかりと考えていただきたいなというふうに思います。

少し内容が変わりますけれども、土庄町教育憲章は昭和39年に制定されており、個人的には素晴らしい内容だというふうに考えております。

しかしながら、39年の、70、60年近くたった憲章となっております。教育委員会といたしましては、この憲章は今の時代に即しており、必要として考えられるのかをお聞きいたします。

○議長（高橋正博君）

教育総務課長 佐伯浩二君。

○教育総務課長（佐伯浩二君）

教育憲章につきましては、議員ご指摘のとおり、昭和 39 年に制定されたものでありますが、この憲章に掲げた理念は、現在にも通じるものがあり、普遍的な教育の在り方を指し示したものであるものとして、今後も大切に取り扱っていくべきと考えております。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

7 番 濱野良一君。

○7 番（濱野良一君）

非常に必要であるというふうな考え方でございます。

しかしながら、前回にも質問させていただいたのですが、ホームページに掲載されているのは、たしか土庄中学校のホームページだけであったように思います。

ぜひ、土庄町のホームページも掲示していただき、広く町民にこのことを知らせていただきたいというふうに思います。

この憲章は私が考えるのは、町民も協力して教育を行い、町民も生涯にわたって学習し、教養を高める教育行政を行うというふうなことだというふうに理解しております。

その点に関しましては、教育委員会としてはどのように考えているのでしょうか。

○議長（高橋正博君）

教育総務課長 佐伯浩二君。

○教育総務課長（佐伯浩二君）

教育憲章の広報につきましては、学校関係の施設等においては、教育憲章を掲示し、常に目視できるようにしておりますが、多数の住民の方の目にするようには必ずしもなっておりません。従いまして、濱野議員ご指摘のとおり、今後はホームページに掲載するなど、一般の町民の方にも、教育憲章に改めて触れていただき、親しく受け止めていただけるような機会をつくっていきたいと考えております。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

7 番 濱野良一君。

○7 番（濱野良一君）

もしも、時代が変わって、ニーズが変われば変更することはやぶさかではないというふうに考えております。ただ、その意見を聞くためにも、広く広報する必要があるというふうに考えます。ぜひ、よろしく願いいたします。

あと、もう 1 つ、大きな教育行政の課題と考えるのは、過去に一般質問したと

おり、ここ2年間の出生数は約50人でありました。聞くところによると、今年度も50人を下回るというふうに考えられております。

最初は、コロナが、出生数の低下の大きな要因に考えられるのかなというふうに考えておりましたが、3年間もこの傾向が続いているということは、以前の一般質問での原因の、要因と指摘された回答に、婚姻数の少なさが挙げられておりました。

その後、この問題をどのように検証したのかはわかりませんが、さまざまな要因が重なってこの結果だと思います。個人的には、子どもを産み育てる世代が少ないということが根本的な原因ではないのかなというふうに思っております。これは、簡単に改善されることは考えられず、この傾向は続くと予想される中、学校運営にも大きな影響があると思います。

この出生数を考えると、10年後の中学校に入学する生徒は50人前後であります。

それから3年間は、間違いなく50人前後の入学者というふうになります。

これは学校運営をする上で、教室、教師の数等々に大きな影響があり、子どもの学校での選択肢が限られてくるというふうに思われます。

この現実を踏まえた上で、今後の学校運営、10年後を見越した学校運営、今の考え方が必要であるというふうに考えますけれども、そのあたりはどのようにお考えでしょうか。

○議長（高橋正博君）

教育総務課長 佐伯浩二君。

○教育総務課長（佐伯浩二君）

今後の学校運営につきましては、確かに議員ご指摘のとおり、この3年間の出生数は50人前後と推移しており、今後の教育活動への影響が懸念される所でございます。

しかし、例えば1学級の児童生徒数が少なくなった場合でも、1番重要なことは教育の質の低下を招かないことであると考えております。

そのためにも、地域の方々が参加する学校運営協議会での意見を踏まえながら、学校と地域が総ぐるみで子どもの教育を考え、質が高く、特色のある、生き生きとした教育を実施してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（高橋正博君）

7番 濱野良一君。

○7番（濱野良一君）

さっきの三木議員の質問とも多少かぶるかと思いますがけれども、教育委員会としてどのように子どもを教育していくか。また、安全安心の面もありました。

そこをしっかりと基盤を作っておかないと、それにのっとった教育行政は行

えないのではないかなというふうに思います。今現在どうなっているか分かりませんが、教育委員会というものは、そのための組織ではないかなというふうに思います。

教育長が教育委員長となられた、今、教育委員会でもありきたりのことを計画するのではなく、また議論するのではなくて、将来を踏まえた、現実を踏まえた、教育行政についての議論を行っていただきたいというふうに考えますけれども、そのあたり教育長ほか、どのようなお考えでしょうか。

○議長（高橋正博君）

港教育長。

○教育長（港育広君）

各学校の教員数というのは、公立義務教育諸学校の学校編制および教職員定数の標準に関する法律によって決められております。ということは、生徒数、また学級数が少なくなりますと、定数が少なくなるというふうな状況です。

しかし、この定数以外にも、各学校の諸事情によって加配教員が増配置されます。この加配教員が少しでも多く配置されるよう、県教育委員会に今後、要望していきたいと考えております。また、現在これらの教員以外に町費で講師を土庄中学校では2名、土庄小学校が1名、豊島小学校では1名配置しております。これも、今後、継続して配置していきたいと考えております。以上です。

○議長（高橋正博君）

7番 濱野良一君。

○7番（濱野良一君）

教育予算がよく語られまして、教育予算は、町が少ないというふうな話をよく伺います。しかしながら、教育予算は、教育者、学校の先生の給料も教育予算でありますので、少ないことはないというふうには考えております。

ただ、先ほどおっしゃられた、町独自で加配の先生をしていただいているというふうなことは私も存じ上げております。子どもたちのためには必要であるというふうに思っております。それは、根本的には、教育委員会、また、町執行部の教育の在り方、根本がしっかりしているからであるかなというふうに思います。

三木議員の質問にかぶせるつもりはありませんけれども、必要であるためには、必要な予算を措置するというふうなことが必要であります。

ぜひ、子どもは、地域の宝だというふうにおっしゃっておりますけれども、そのあたりしっかりと頭に念頭に置いて、教育行政を行っていただきたいなというふうに思います。

町長にも、お聞きしたいなというところがございます。というのは当然、教育長の任命者は町長でございます。教育行政全般の責任の所在は、最終的には町長

に返ってくるというふうなことでございます。ぜひ、町長のこれからの教育に対する考え方をお伺いしたいなというふうに思います。

○議長（高橋正博君）

岡野町長。

○町長（岡野能之君）

濱野議員の質問にお答えいたします。

私の考え方といたしましては、担当課長のほうからお伝えしたとおり、子どもたちの未来のために、教育のすべては子どもたちの未来のためにあると認識して、教育行政を進めてまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

○議長（高橋正博君）

7番 濱野良一君。

○7番（濱野良一君）

ありがとうございます。

最初の町長の施政方針の中にも、確か盛り込まれておったというふうに考えております。これから小豆島、大変な時代に、もしかしたら突入していくかもしれませんが、われわれがしっかりと将来を見据えた教育行政を行うことが必要であるというふうに考えます。そのためには、いろんな知識を出しながら知見を出しながら、いろんな人の協力をもとに行っていくことが必要であると思います。

先に述べました、障害者支援学校が設立されたことも、一つの良い事例ではないかなと、一丸となって、同じ方向を向いてやっていくということは県、また、もしかしたら国をも動かせることはあるかもしれません。

ぜひ、そういう気概を持って、土庄町の教育行政に当たっていただきたいと、いうことふうなことをお願い申し上げまして、私の一般質問を終わります。